

東濃農林事務所の普及活動状況

令和7年4月

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■直売所 農産物直売所出荷者確保に向けた「野菜づくり塾」の開講

4月22日（火）、JAとうと経済センターで、「野菜づくり塾」が開講され、東濃3市から市民23名が参加した。

「野菜づくり塾」は、JAとうとが農産物直売所の出荷者の確保と技術向上を目的に開催し、年15回の講義と実習を通して野菜栽培の基礎を学ぶことができる。

令和6年度には、2名の卒業生が新たに出荷を始めた。

今回、塾生は、農業普及課から、野菜栽培に向けた土壌改善や肥料の種類など、土づくりの基礎についての講義を受けたのち、JA担当者の指導のもと、体験農場で土壌改良剤の散布や耕運機の作業実習を行った。

塾生からは、土づくりの必要性や機械の扱い方を学ぶことができたと高評価であった。

今後も、農業普及課は野菜づくり塾の開催を支援し、新たな直売所出荷者の確保を図っていく。



【耕運機の使い方を学ぶ塾生】

■直売所 たじみ農産物直売所運営検討会議の開催

JR多治見駅前にあるたじみ農産物直売所「駅北ファーム」は、多治見市内の農家を中心に約130名が加入する市内最大の直売所で、旬の野菜や加工食品の品ぞろえが豊富なことや、立地条件が良いことから人気が高い。

4月22日（火）、たじみ農産物直売所の運営検討会議が開催された。たじみ農産物出荷者協議会、多治見市、JAとうと及び農業普及課が出席し、今年度の運営について協議した。

会議では、昨年度の経営実績から、近年減少傾向であった年間販売額が増加した一方、高温の影響による出荷量の減少、出荷時期の遅れや来店者数の減少が課題として挙げられ、品ぞろえを充実するために、気象条件に対応した安定生産対策について検討を行った。

農業普及課は、直売所の活動支援や出荷者への技術指導を通して、地域農業の活性化をサポートしていく。